の初めて史に見えたるものと爲せるは全く Marquart 氏の考なり、然れども此の名は早く既に貞觀四年に現はるゝこと、第三四三頁注④に載せたるが如くなれば、氏の考は固より正しきものにあらず、）

上に述べたる Marquart 氏の説に對しては今詳細の論評を試みざるべきも、然も此の説が徒に牽强附會に走れる所多きは、何人も容易に看取する所なるべし "On Uiγur, Toquz Oγuz" を以て「昔 On Uiγur と言ひたる今の Toquz Oγuz」の義に解かんとするは、文法の上よりは或は可なるべしと雖も、然も到底窮餘の説明たるに過ぎず、殊に十姓 Uiγur と稱せられたることに就きては、何等の徵證なき隋書鐵勒傳の初に記さるゝトルコ族諸部中の十部を捉へ來りて、之を On Uiγur に擬せんとするが如きに至りては、少しく當時の史實に通ずるものゝ恐らく贊意を表せざる所たるべし、余輩は先に Rashid-eddin の傳説中に見ゆる On Uiγur 及び Toquz Uiγur の名が後世に至りて初めて現はるゝものなるを以て深き注意を拂ふを避けたりしが、今事實上其の一なる On Uiγur の名が、當時の根本史料に記されたるを見れば、少くとも此の傳説は此の名に就きては能く古くより存したるものを傳へたるものにして、從て他の一なる Toquz Uiγur なる名も、亦恐らく當時存したりしものと見るを得べきを思ふ、果して然らば Toquz Uiγur 卽ち九〔姓〕Uiγur と曰ふものは、漢史に藥羅葛・胡咄葛等の九姓より成れりと記せる回鶻の一部なりしなるべく、而して On Uiγur 卽ち十〔姓〕Uiγur とは漢史には特に別部として記せる、回鶻中の他の一部（卽ち九部より成りし以外の）なりしなるべし、九部より成りし回鶻の一部は、初より唐と深き關係を有し、武后の時代には突厥に迫られて甘州地方に移るに至りしが、其の後も北方には尙回鶻部の殘存するありて、默啜を滅ぼすに就